

機関紙「資料館だより2014年春号」を発行しました

このたび、資料館での出来事や活動状況、各種のお知らせ情報などを凝縮してお伝えする「資料館だより2014年春号」を発行しました。

春号では、平成25年9月以降の資料館の動きを紹介しています。9月には、公害病の教訓継承に向け、四大公害（水俣病・新潟水俣病・四日市公害・イタイイタイ病）の語り部が一同に会した「語り部伝承会」が開催され、公害を知らない若い世代への積極的な伝承と公害を経験した4つの資料館の今後の連携の必要性を再確認しました。

また、2月には四大公害病に学び、教訓を未来へ伝承し、環境と健康の大切さについて考える「県民フォーラム」が開催され、イタイイタイ病について理解を深められた小学生・大学生による学習成果発表や作家で環境保護活動家のC. W. ニコル氏による講演会、四大公害病の資料館長等によるシンポジウム、などが行われました。このほか、課外学習で来館された子どもたちの「イタイイタイ病の学習状況」の調査結果についても詳しく掲載しています。

この「資料館だより」は、年間2回（春・秋）発行しており、公立図書館等でご覧いただけるほか、資料館のホームページからも閲覧できます。

「資料館ホームページ」(URL <http://itaitai-dis.jp>)



春の特別企画展「萩野 昇の生きた時代」を開催します

前号でもご案内しておりましたが、イタイイタイ病の原因究明と患者の治療に献身的に尽くした萩野昇氏の生涯をご紹介する春の特別企画展『萩野 昇の生きた時代』がいよいよ4月26日(土)から始まります。生誕百年を迎えるにあたり、その功績を写真・愛用品等の展示や萩野昇氏ゆかりの人々による鼎談で振り返ります。

また、カドミウムによる腎臓障害と骨軟化症との関係を研究された富山大学医学部の学生、馬場逸人さんによる研究成果の発表も行います。

この機会に是非、イタイイタイ病資料館へご来館ください。皆様のお越しをお待ちしております。

■写真パネル・愛用品等の展示

期間：4月26日(土)～5月6日(火・振休)

場所：富山県立イタイイタイ病資料館 2階 交流学習ルーム

■研究発表及び関係者による鼎談

日時：4月29日(火・祝)

場所：とやま健康パーク 2階 第1研修室

① 研究発表：13:30～14:20

発表者：馬場 逸人 さん(富山大学医学部6年)

演 題：『顕微鏡からみえるイタイイタイ病

～イ病研究の継承と新たな発信をめざして～』

② 鼎 談：14:30～16:00

パネリスト：青島 恵子 氏(萩野病院院長)

高木 良信 氏(イタイイタイ病対策協議会副会長)

鏡森 定信 (イタイイタイ病資料館長)



■萩野 昇氏

富山県婦負郡熊野村(現・富山県富山市婦中町)十五丁の医師の家に生まれ、実家の萩野病院の院長として患者の治療にあたる。そのような中、身体の痛みを訴える中高年女性の患者が異常に多いのに疑問を持ち、その原因究明と患者の治療に取り組んだ。イタイイタイ病が三井金属鉱業(株)神岡鉱業所の廃水中のカドミウムが原因であるという説を発表し、後にイタイイタイ病は、国が初めて認めた公害病となった。イタイイタイ病裁判では、医師の立場から患者の苦痛の実態を証言した。長年、患者の治療に献身的に尽くし、多くの患者から慕われた。